

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学実践領域	S118	1年	前期	助産学専攻科	必修	助産学実習Ⅰ	135	3	
						Clinical Practice in MidwiferyⅠ			
担当教員									
井上 明子		今村 朋子		瀧本 千紗					
関連するDPキーワード									
☐	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
☐	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
☐	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
☐	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
☐	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
周産期ケアから女性の健康支援まで幅広く、リプロダクティブヘルス／ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。また、1例以上の分娩介助を実施し、マタニティサイクルの助産実践の基礎を学ぶとともに、助産学実習Ⅱの導入として位置づけ、今後に向けた課題を見出す。									
到達目標（授業目標）									
1．正常な経過をたどる母子と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。									
2．女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。									
3．助産師像を明確に描くことができる。									
授業計画（項目・内容と方法・担当者）									
授業概要	1．実習期間：3週間								
	2．実習時間：原則として、8：00～16：00とする 分娩期実習は24時間の待機制で行う								
	3．実習場所：愛媛県内の分娩を取り扱う医療機関（詳細は実習要綱を参照）								
	4．実習の展開：詳細は実習要綱を参照								
成績評価方法及び基準									
実習評価表（100点）の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。60点以上を合格とする。									

教科書		主に助産診断・技術学Ⅰ・Ⅲ、助産診断技術特論、周産期ハイリスクケア論等で用いた教科書を使用する。									
参考図書等		適宜紹介する。									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）											
実習内容についての事前学習、事後学習、事例記録などの時間外学習を必要とする。											
関連科目											
前科目	S103	周産期医学	S104	新生児・乳幼児学		助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ	S110	助産診断・技術特論			
後科目	S119	助産学実習Ⅱ									
実務家教員											
備考	※この科目の先修要件は、S102性と生殖の形態機能、S103周産期医学、S104新生児・乳幼児学、S107-S109助産診断技術学Ⅰ～Ⅲの科目の単位を全て修得していることとする。 この実習では、学内での学びを統合させ、1～2例の分娩助介を通じて助産援助の基礎を学ぶことになります。この実習で得た学びを、さらに助産学実習Ⅱで深めます。										